

# 多動・他害の原因と対応

2024.11.15

発達を見守る会

発達クリニックCan 遠藤尚宏

# 今日のポイント

- 多動はその子の特徴と、その時の状況が重要
- 多動は年齢とともによくなる
- 他害はその子の言語レベル、コミュニケーション能力に加えて、その子自身が誰かに暴力を経験・目撃していないか（モデルの存在）の確認が重要
- 他害はきっかけ、本人の行動、結果にわけて振り返り、対応を組み立てる

# “かなり”多動になる子のタイプ分け

1. 理解力（知能）が低い
2. 動きが多い　＋多弁、集中が続かない、時間感覚が弱い
3. まわりが見えていない
4. 気持ちのコントロールが苦手
5. 環境因（生活リズム、養育・保育環境等）

# 1. 理解力（知能）が低い

- 子どもは幼ければ幼いほど落ち着きがない
- 知能と言語レベルは比例しやすいので、知能が低いと口頭指示がわかりづらくなる
- 実際の年齢よりも発達段階がゆっくりなら、その分、落ち着きがなくなる。特に、集団の中で見た場合は違いがわかりやすい。

# 0～2歳の発達

- 愛着形成が最も大切
- 言語発達は言語理解で評価
- 「そこにあるから」が重要な行動の理由

# 3～5歳の発達

- 自己実現の達成
- 自己制御の発達
- 「楽しい」が行動規範  
→ イヤイヤ期・かんしゃく

# 発達が遅くくいな子の対応

- 発達段階を意識した関わり
  - \* 3歳までは物事を視覚的に記憶する
- 年齢相応の経験を提供する
- 年齢相応の振る舞いを求める
- 自己肯定感が下がらないようにする

## 2. 動きが多い

+ 多弁、集中が続かない、時間感覚が弱い

- 子どもは幼ければ幼いほど落ち着きがない
- 3歳の時点では、のちのち診断がつかない子でも、多動や破壊的な行動、強いかんしゃくは高率にみられる



# 注意欠陥多動症 (ADHD)

落ち着きのなさ

衝動性の高さ

不注意

集中力が続かない

上記のため、複数の場面で、生活に支障をきたしている  
100人に5～7人もいる

増やしたい  
行動



褒める  
注目する

減らしたい  
行動



何もせず見  
守る  
(過剰に反  
応しない)

許しがたい  
行動



制限を設け  
る、公正に  
・非身体的  
に、望まし  
い行動を増  
やす≡ほめ  
る機会作る

期限つき  
因果関係  
を明確に

一貫性と継続性が大切

薬が効く（かもしれない）多動

場所や条件によってほとんど違いがない多動

薬が効かない可能性が高い多動

発達段階（知的能力）相応の行動

反応性の多動

感覚欲求を満たすための多動

### 3. まわりが見えていない

- 動きが多い、というよりも、場に合わない言動をしているタイプ
- 就学前だけでなく、就学後も続きやすい
- 好きなこと、興味のあることには過集中する。それ以外のことには集中が続かない以前に、やる必要性を感じていないように見える
- 悪気がなかったり、なぜ注意されているのかわかっていなかったりする

# 自閉スペクトラム症 (ASD) の特性

## ① 社会性の問題

(やりとりが苦手)

人との距離感の問題

(察すること・意味づけすることが苦手)

会話・説明が苦手

(要点をまとめる、言葉で考える、相手の立場に立つことの苦手さ)

## ② 想像性の障害 感じ方の偏り

興味・関心の偏り、執着  
ネガティブ記憶が強く残る  
概念理解の難しさ  
感覚過敏 (特に聴覚)

③ 上記の特性による、日常生活の困難がある

# 支援の原則は『SPELL』

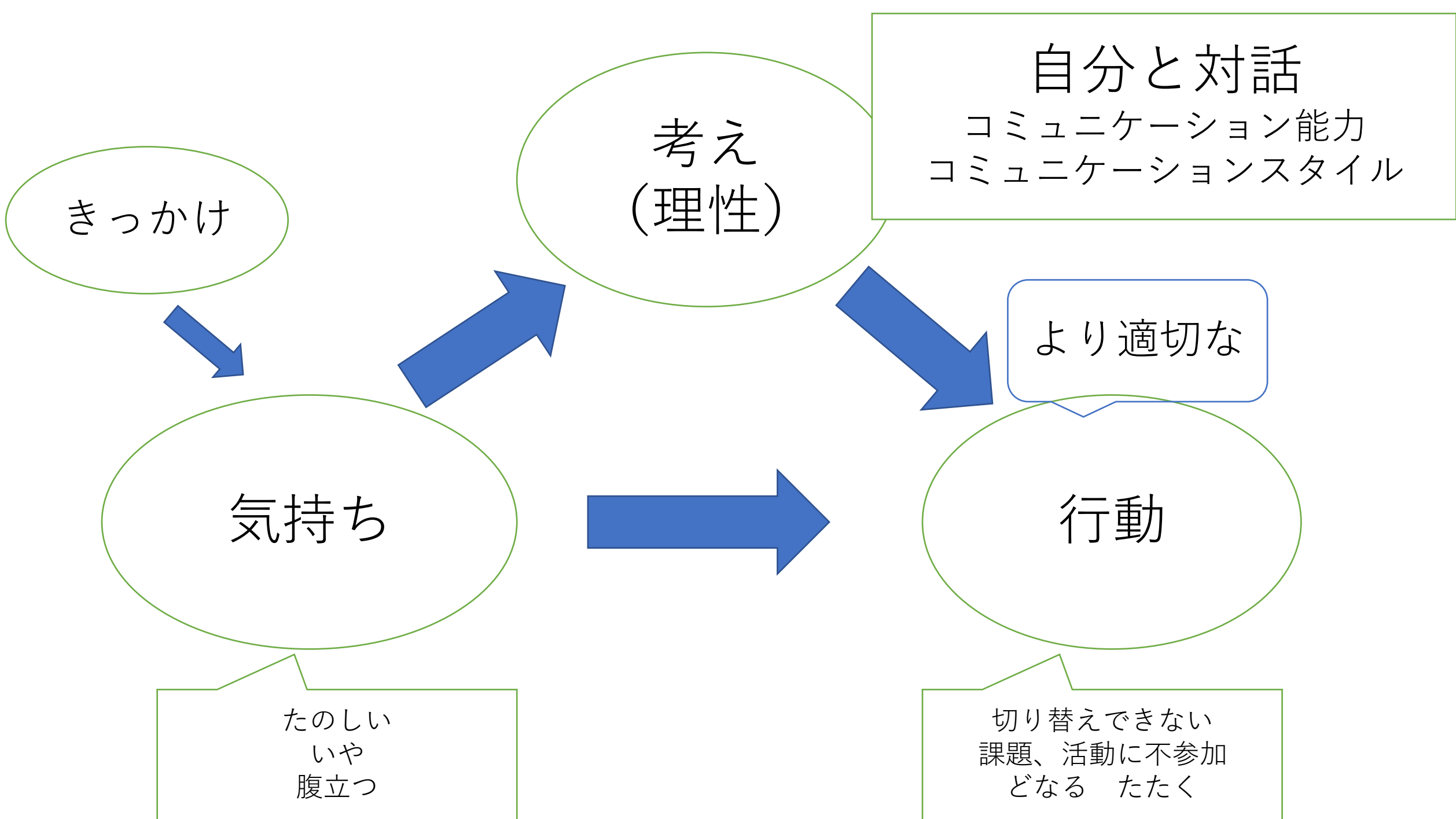
## \* イギリス自閉症協会の基本理念 \*

<b>S</b>	<b>Structure</b> 構造化	何をどうする、終わりの明示など、具体的な <b>見通し</b> を <b>視覚支援</b> でわかりやすく提供する <b>一貫性</b> のある環境
<b>P</b>	<b>Positive</b> 肯定的な関わり	肯定的な表現、肯定的な枠組み(罰を与えるのではなく褒める流れに)、 <b>成功体験</b> を積み自尊心向上
<b>E</b>	<b>Empathy</b> 共感	自閉症特性を持つその人が何をどのように体験し、どのような心理状態にあるのか理解しようとする姿勢
<b>L</b>	<b>Low arousal</b> 低興奮・低刺激	興奮やストレスを不用意に招かないようにする環境整備、関わり方の工夫(不快さを低減し安心を増やす)
<b>L</b>	<b>Links</b> 連携	家庭や地域、教育、医療、福祉など、その人や家族を孤立、混乱させないチーム作り

参考：  
TEACCH  
ABA<sup>14</sup>

## 4. 気持ちのコントロールが苦手

- 一般的にかんしゃくを起こすことが普通である2～4歳の発達段階を過ぎても、かんしゃくのような興奮、攻撃性が続く場合
- 細かく見ると、ネガティブな気持ちを抱えることの苦手さ、心身のストレスへの耐性の低さ、他者の責任を追及する傾向、自分が悪いと思った相手に制裁を加える、などのパターンがある
- 発達特性が関係する場合もあるが、多くは保育・養育スタイルの問題や、よくないモデルの存在がある
  - = 自分がされていること、見てきたことを再現している





# 感情コントロールの力を育てる関わり方

- 0. 落ち着くのを待つ
- 1. 気持ちをきく（代弁する）
- 2. 気持ちは否定しない
- 3. 行動は修正する
- 3' 別なとらえ方があるとする

## 指導する側の注意点

「穏やかに」、「ゆっくり」、「押し付けない（説得しない）」

# 環境因やストレスはないか？

## 身体的ストレス

寝不足、疲れ、痛み、熱などの体調不良、虐待

## 精神的ストレス

不安、きびしいしつけ、虐待、まわりの一貫しない態度

例：運動会・お遊戯会の練習、偏食が多いの子の給食時間

まずは、子どもの置かれている環境や立場について、何か改善できることがないか想像してみましょう。

# 他害

- 低年齢の場合は、基本的に言葉の代わりに手が出ていることが多いので、言語発達やコミュニケーション能力の成長とともによくなる

→他害が出る時の、こどもの状況認識、その時の気持ち、適切な言動について振り返りをする事で、社会性を伸ばす

- 暴力がコミュニケーションのスタイルやパターンとして根付いていると、子どもへの指導だけでは変わらない

→保護者のしつけ方や園などでの保育スタイルの確認

# 行動の見方

## A：事前

いつ  
どこで  
誰と  
何を  
どのように

しないときは？

## B：行動

(他害)

## C：結果

- 本人
- 周囲

# 行動の見方

## A：事前

自由遊び時間に、おもちゃのとりあいになった。

しないときは？

自分が遊び続けられるとき、もしくは、相手がゆずってくれたとき

## B：行動

他児にかみついた（かみつこうとした）

## C：結果

- 本人  
先生に止められ、注意された  
かんしゃくを起こした
- 周囲  
相手は泣いた  
先生は本児を注意した

# 保護者への対応

- 保育者・支援者側が気になっていること、困っていることに対して、**保護者が、**

**①気づいているか？**

**②気づいているなら、困っているか？**

**を確認する、見極めることが大事**

# “気になる”を指摘されることに抵抗がある 保護者の気持ち

第3回発達を見守る会“保護者支援”より

- 育て方を否定された。
- こどものことを「変な子」「おかしな子」という目でみられた。
- こどもを障がい児にはしたくない。

**ショック**

**否認・拒否**

発達のアンバランス（凸凹）に対する気づきがないと、  
自身を否定されたように感じてしまう

**混乱・怒り**

（気づいていてもまだ受け入れられないのかもしれない）



厳しく躰ける、思うように育たないことへの失望

# 日々の関わりでできる保護者支援

第3回発達を見守る会“保護者支援”より

1. 日々の関わりの中で感じたその子の“困り感”を保護者へ伝える。

●困っているのは（将来、困ることが起きそうなのは）  
その子（こども）自身!!

2. 家庭での様子や保護者の困り感を確認。あわせて、家庭でどのような関わりをしているのかを教えてください。

●家ではどんな様子なのか。保護者の困り感はない？

園や学校などと家での様子にどの程度の違いがあるのか確認。

●関わりを一方通行にしない!! “一緒に考えていきましょう”



3. 関わりの中で上手くいった点・上手く対応できなかった点を保護者と共有する。

●“～ができませんでした”の報告だけでは、保護者の焦りや不安が大きくなる。



- ★繰り返すことで、保護者のその子への理解を深めていく。
- ★保護者との共通理解を図る。
- ★保護者に“ひとりではないよ”のメッセージを伝えていく。

関わりの中では保護者の価値観を否定しない！

第3回発達を見守る会  
“保護者支援”より

ところで・・・

家庭機能の弱さを抱えているケースは、実は、保護者が・・・

**1. 人に頼る・望むということをしてない、うまくできない**

**2. 報われるまで待てない、ずっと報われた感じがしない**

**3. 言葉で表現することが苦手**

である場合がある。

上記を配慮して親に関わること、支援者が子どものロールモデルになることが必要になってくる。行政を含めた早期支援が要。